

▽流沙川学舎



▽王舎城学舎



鹿野学園

【学校名】鳥取市立鹿野学園
 【所在地】流沙川学舎(鳥取市鹿野町鹿野2888) 王舎城学舎(鳥取市鹿野町鹿野896)
 【校長名】村尾行也
 【児童生徒数】245人

【学校教育目標】ふるさとを誇り、世界で活躍する人づくり ふるさとを守り、地域を支える人づくり

※記事と署名の学年は昨年度のもの。

【沿革】

平成30年4月1日、鹿野小学校と鹿野中学校を統合し、義務教育学校鹿野学園として開校。流沙川学舎(旧鹿野小学校)と王舎城学舎(旧鹿野中学校)、二つの校舎を併用する施設分離型。1～5年生の5年間と、6～9年生の4年間を区切りとする5・4制を導入。学校経営の柱として道徳教育を第一に掲げ、自らの人生のモデル「かくありたしの像」の構築をめざし日々教育活動に当たっている。また開校に合わせ、独自教科「表驚科」を新設。主たる活動である表現ワークショップを、劇団「鳥の劇場」、青山学院大学演劇研究グループと協働しながら進めている。



独自教科「表驚科」

堂々と語る自身の志 「かくありたしの像」発表

9年生



表驚の果立ち式で志を語る9年生

9年生が、自分の志す生き方や人物「かくありたしの像」について発表する「表驚の果立ち式」が昨年11月17日に行われた。

学校生活や道徳の授業などを通して、人の生き方について考えを深め、自分のかくありたしの像を確立していく。9年生になると、それぞれの人物についてより詳しく調べ、発表の準備を進める。式当日には、児童生徒だけでなく日頃見守ってくださっている保護者の方や、地域の方が来てくださった。発表を聞いてみると、ほんの何カ月か前までは身近じゃなかった部活動をしたりに近づいた先輩たちが、ずっと先に行ってしまったと感じるくらい、自分の志を堂々と語っていた。これからは、この伝統を受け継ぎ、それぞれ自分の生き方について考え、発表することで自信を持って前進していきたい。

(8年・原田一星、竹部温大)

迫真の演技を見せる「ピーターパン」



練習を重ね 楽しくプロ演出の「ピーターパン」

7年生

1年間通して練習した劇は、こじか幼稚園で発表した。園児たちの笑顔を見ることができて、頑張った良かったと思った。(7年・池原萌子)

7年生の表驚科では昨年度、すげ笠等、演劇の三つのグループに分かれて活動した。演劇グループでは「鳥の劇場」の齋藤類陽さんに指導していただき、1

生まれる、素晴らしさ 「学び方を学ぶ」表現WS

8年生



偉人を紹介する表現活動に挑戦する生徒

8年生は昨年度、青山学院大演劇研究室の皆さんや「鳥の劇場」の劇団員さんと、4時間をユニット(活動2時間、省察1時間、発表1時間)として年間4回、表現WS(ワークショップ)を行った。表現WSでは、演劇やメディア表現を通して「学び方を学ぶ活動」に取り組んだ。「見立て」(ものを何かに見立てる活動)や、「カタルタ」(カードをもとに話を展開する活動)、「椅子取り鬼」(鬼を座らせないゲーム)などで雰囲気を作りながらクラスごとにストーリーを考えて表現活動を行った。『偉人を紹介するストーリー』を考えて演じるというテーマは、今までとは違ってとても難しかったので、なかなかいいアイデアが浮かばなかった。各級の発表で気付かされるのがたくさんあり、さまざまな視点で考えられるいいアイデアが浮かぶことを学んだ。そして、自分の意見だけを突き通すのではなく、他の意見も積極的に取り入れることで、より良い表現や面白い表現が生まれ、自分の思っていた以上に素晴らしい作品ができたということも学んだ。(8年・安藤太亮)

年を通して一つの作品を作った。「ピーターパン」を演じることになり、配役や脚本など話し合いを重ねて原作を元に脚本を作り、新しく歌を取り入れた。みんなで楽しく練習をしていくうちに、私の中で変化することがあった。見ていながら楽しんでみたいという気持ちで演技をするので、自分自身が楽しくなってきたのである。恥ずかしさがなくなると、役のイメージ通りに演じることができるようになり、体を張った大きな表現もできるようになった。

第1回を記念して全校集合写真を撮影



白熱の戦いで僅差 大運動会

第1回鹿野学園大運動会が昨年9月12日、流沙川学舎校庭で行われた。全校245人が赤、黄、青のチームに分かれ、白熱した戦いを繰り広げた。9月8日に予定されていたが、雨天で延期になり、時間の都合で午前中のみ開催となった。それにもかかわらず、たくさん保護者や地域の方々が来てくださった。演技種目も全部はできなかったが、どのチームも少ない種目を主力で戦い抜くという精いっぱい頑張った。チーム対抗応援合戦では、息の合ったチームワークを見せることができた。プログラム最後のチーム対抗リレーでは、各チームの作戦が功を奏し、大接戦となった。初代総合優勝は、僅差で青組「青心統一」チームが勝ち取った。どのチームも熱戦を繰り広げた運動会は、第1回にふさわしいものになった。(8年・竹部温大)

「ジャンケン列車」を楽しむ児童生徒



たくさん一緒に 全校遠足

昨年5月11日、1年生から9年生まで全員が参加する初めての全校遠足があった。上学年と下学年が手をつなぎ、長い道のりを歩いて交流した。コースの途中の温泉公園では、グループごとに校歌を歌って得点を競い合った。温泉公園を出発し、奇数年は旧小鷺河小へ、偶数年は旧勝谷小へと向かった。私たちは勝谷コースを下学年と手をつなぎ、学校生活のことなどをたくさん話しながら歩いた。一緒に遊ぶゲームをしたり、ジャンケン列車などのゲームをしたりして、普段はできない交流ができた。実行委員として事前の準備は大変だったが、皆の喜んでいる顔を見ることができ、準備をしたかったと感じた。初めての全校遠足は、思い出に残る遠足になった。(8年・松井優奈)

一致団結のハーモニー

文化祭、先輩が率先して合唱



昨年11月4日に行われた初の文化祭は、9年生にとって最後の文化祭となった。課題曲の合唱で8年生は緊張していたが、9年生の先輩たちは後輩たちを盛り上げてくれた。合唱の練習をする日にちるにもかかわらず、先輩たちは、どんな時でも必ずほめてくれたので、私たちは自信に満ちあふれて歌うことができた。1年生から9年生まで全員で歌った校歌は、体育館に響き渡り、一致団結したハーモニーを観客に届けることができた。次は8年生がリーダーとなる番なので、昨年度の9年生を超える9年生になれるよう頑張りたい。(8年・川田菜)

鹿野の自然守り良さを広めたい

ボランティア活動



「蓮ウォーク」の参加者に寺院の説明をする生徒

鹿野町ではボランティア活動が盛んに行われており、中学生も地域の行事にたくさん関わっている。昨年の夏は「蓮ウォーク」の参加者に、鹿野の豊かな自然や寺院を紹介するボランティアに参加した。初めての参加だったので不安だったが、1人目のお客さんが寺院の説明をうけしつづいて聞いてくださったので、とてもやる気が出た。その後もほとんどお客さんが来られて、気がついた時には夢中になって説明していた。また、地域に貢献することができ、美しい自然を守り、たくさんの方に鹿野に来ていただきたい。鹿野の良さを広めていくように、これからもいろいろなボランティア活動に参加していきたい。(8年・紺野凛、長谷川凜)

切磋琢磨のたまもの

自習ノート展



自習ノート展の結果発表



なかよし班活動による運動会の応援合戦

心が一つに ぎずな強く

なかよし班活動

流沙川学舎では昨年度、なかよし班活動で会合をしたり、掃除をしたりするなど、みんなで大活躍の活動をした。会合では「鹿野学園」をテーマにして1人が1句書いた。それを5年生が中心になって班のみんなが話し合い、一番納得するものを1句選んだ。掃除では、なかよし班の赤、青、黄のそれぞれの班に分かれ、学校の中をすみずみまできれいに掃除をした。3月にはワックスがけがあるので、それに向けて各班の全員が水拭きを頑張った。掃除が終わるとヒカヒカになっていた。運動会の応援合戦に向けては、色別で応援歌やコールを工夫し、5年生を中心に休憩時間も削ってひたすら練習した。本番では最高の演技ができた。みんなの心が一つになった。(6年・茶谷柚月)

目指せ！達人

掃除お師匠さん制度



目指せ！お掃除マイスター

王舎城学舎では掃除に力を入れている。その活動の一つとして掃除お師匠さん制度があり、年間を通して掃除の達人を表彰している。この期間は、他学年の先輩と後輩が同じ場所で一緒に掃除をするので、普段一緒に活動することがない人とも顔見知りになり、会話のきっかけづくりにもなっている。掃除の達人として「お掃除マイスター」に推薦される制度があり、お掃除マイスターに選ばれたら一生懸命掃除に励む姿も見られるようになった。(8年・山下愛結)